●生活上のバリアフリーグッズとしての「色覚補正レンズ」

色の見え方、感じ方は、その当事者それぞれに違い、文字通り十人十色です。色覚補正レンズも現在12種類あります。
「色」で困ったときに、いつでも気軽に確認できる友だちや家族などと同様に、補正レンズを持つことも「バリアフリー」の選択肢の一つだと思います。
色覚補正レンズは、今では多くの方々に使用されています。この補正レンズをもってすべてが解決するわけではありませんが、仕事に活かしている方もいます。

色覚補正レンズ

色覚補正レンズは、タイプ別に12種類あります。
ネオ・ダルトン㈱製

●赤やピンクが見えにくい人の目になる「体験レンズ」

「色の見え方が違う、識別がしにくい」とはどういうことなのか？　実際に体験できるレンズです。
「こんなレンズがほしい！」との声が多くあって誕生しました。
このレンズで、例えば教室内の時間割表や図表の色などをチェックしながら、掲示物などを作成していくことで、多くの子どもたちに見えやすい環境ができていきます。

体験レンズ

体験レンズは、強・弱2種類あります。
ネオ・ダルトン㈱製

秋の稲田に彼岸花が咲いている風景

色が違って見えたり、識別がつきにくい人の見え方（例）

※すべてこのように見えるわけではありません。一例であり、
体験レンズを通して撮影した写真を印刷していますので
実際の見え方とは少し異なります。

見えてる色は、それぞれ違う?

人は顔も声もすべてが一人ずつ違います。いろいろな違いがある中で、私たちは色の見え方の違いを取り上げています。

視覚は視力、視野、色覚という3要素から成り立っています。視力に差があることは社会的に広く認識され、メガネやコンタクトレンズなどで解決することは常識となっています。けれど色の見え方（色覚）の違いはあまり知られていません。現代の社会は色にあふれています。色によるサインは日常の生活に組み込まれています。しかし多くの人にとって目立つ色が、みんなにとって目立つ色ではないのです。色の見え方の違いが生命に関わることも少なくありません。

私たちは、私たちのイベントに来てくださった、色の見え方が多くの人と違う子どもたちにたくさん出会いました。そして初めて見る赤色やピンクに喜ぶ笑顔を、感動しながら見てきました。赤やピンクが分かりにくい人には、いわゆる「色覚補正レンズ」の中からその人に合ったものを探し出して、他の多くの人の見え方を体験することができます。そうすると今まで見たことのない色の世界があることに気づきます。
「この子の説明してくれる色が、私には理解できないのです」、イベントでそんなふうに話すお母さんの声も多く聞きました。これも「体験レンズ」を使ってみることで、おおよその理解ができます。

色の見え方がそれぞれに違うということを、まずは知ることが大切です。人はそれぞれ違っているのは当たり前で、お互いに影響し合うことにより、誰もが生きやすい社会を創る…私たちは、そんな社会づくりを目指して活動しています。

この冊子は「ドコモ市民活動団体助成事業からの助成金」により制作しました。感謝とお礼を申し上げます。この冊子がより多くの方々に読んでいただけますことを願っています。

2018. 3

特定非営利活動法人 True Colors
理事長　高橋紀子

True Colors

True Colors という名前について
直訳すれば「本当の色」となりますが、人それぞれの色の見え方が違うなかで、一つの真実の色を追求していくのではなく、多くの人が理解できる「あてはまる色」という意味で名づけました。